



元気っ子

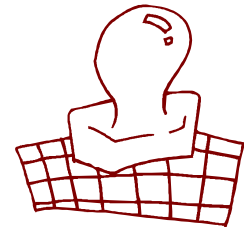
No197 ながさわ保育園

園長

市川温予

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。
北風が吹き、寒さも厳しい季節となりますが、お天気の良い日は戸外で体を動かし、健康に過ごせるようにしていきたいと思ひます。

さて、今年も2月8日（土）に、鈴鹿市文化会館けやきホールで「お遊戯会」があります。子ども達は、お遊戯会に向けてダンスやオペレッタなど自分のしたいことを選んで練習をしています。大人から強制的に「〇〇くんはダンスね。」と言われ、やらされてないので子ども達の表情も生き生きとしています。また、子ども自身が「私はダンスがしたい」と自己決定しているので子ども達一人ひとりに責任があります。最後までやり通してほしいと思ひます。



子ども達は保育園という集団（社会）の中で、生活や遊びを通していろんなことを学んでいます。楽しいことや悲しいこと、頑張った時の達成感や逆に挫折感、相手を思いやる優しさ、思い通りにならない悔しさ、なくさめてもらう温かさ、心地よさなどです。

お遊戯会の練習もそうです。今、先生達が一生懸命にダンスをしたり、セリフを言ったりと子ども達と一緒に取り組んでいます。大人が必死になってやるのが大切です。練習を見ているといろんな子ども同士の関わりがあります。ダンスにしてもオペレッタにしても年長さんのすることをじっと見ている年中、年少さん。そして大きい子の真似をしたり、セリフを言う時も「せーの！」と声を合わせて言ったりと異年齢ならではの姿だと思ひます。まだまだ自分のことで精一杯な年長さんも小さい子のことを気遣い、目や心かける姿をみると胸が熱くなります。子どもの力は無限です。お遊戯会本番まで、「大人・子ども関係」「子ども・子ども関係」の育ち合いを楽しみに、子ども達一人ひとりが持っている力を自己発揮できるように見守っていきたくと思ひます。

